

妻が気づかせた使命

今岡 善次郎 (いまおか ぜんじろう)

東京農工大学大学院 客員教授

私の妻、現在60歳ですが若年性アルツハイマー病を発症して7～8年になります。日常の記憶を留めることも、食事も入浴も排泄も、自分の脳で手順を踏むことができません。しかし、家族や友人との病院での面会では笑顔を見せ、レストランではケーキをおいしそうに食べてくれます。まだ、残っている能力を精一杯見せてくれます。それが、人間として生きて人生を楽しんでいる証だと思ふのです。その笑顔を見るのが私の喜びでもあります。

現代医学では不治の病、平均寿命8年と言われる難病だと言われていますが、人生を終える瞬間まで生きていることを楽しませることが、私の使命でもあり喜びでもあります。

病気発覚からしばらく仕事もできず、在宅介護の辛い日々でした。しかし、どんな障害があっても閉じこもらず、家族や友人や社会との絆を保つことが、人を生き生きさせる。家族や友人だけではなく、優しい介護士・看護師との笑顔の交流が彼女を生きさせているのを見て、私がやるべきことが何であるのかを見出すことができました。「人との関係の中で人間は存在する」という大切なことを、妻が気づかせてくれたのだと思います。人間は、組織や社会の関係性の中でしか存在しできないという本質を。

そして、これをマネジメントの原理として追及したピーター・F・ドラッカーの思想と共通していたことに気付いたのです。「マネジメント」とは、単なる企業組織の話だけでなく、家族も含めあらゆる社会組織に対しても、志のある人間を活かして効果的に人に貢献するための場であること、人に関わる社会建設の方法論であることだと痛感したのです。

ドラッカー博士の「マネジメントの目的は経済的なものではなく、人間的社会的な、組織の外側にある成果を実現することである」の意味を解釈すれば、マネジメントの目的、人間社会にもっとも必要なもの、それは“自分”から“他人”への貢献、もしかしたら別名「愛」と言われるものでないでしょうか。

私なりに、妻の介護をきっかけに、人生について、ビジネスのあり方について、いろいろと考えるきっかけになりました。

そして、ドラッカー博士の社会生態学的洞察、「生命的プロセスに部分はなく、全体との関係でしか存在しない」。

これから言えることは、人生とビジネス(会社)、そして社会とが、実は同一のものではないだろうか。マネジメントの対象として、

別々に考えていた「人生」「企業」「社会」が、同じ人間にかかわるもの、求める究極の目標が人間の内面を豊かにし、人の人生を幸せにすることじゃないかと。

還暦過ぎてから、ドラッカーに目覚め、「人生設計・企業設計・社会設計」という大きなテーマに取り組んで行こうと決意をしました。アルツハイマー病になった妻が私に残りに人生の使命だと言っているのじゃないかと。

ここで私がドラッカーに目覚めた経緯を述べさせていただきます。

「ドラッカーとトヨタ式経営」（2008年8月、ダイヤモンド社、今村龍之助著）で始めて、一般に紹介されたドラッカーとトヨタの関係。

2005年初め、日本経済新聞の「私の履歴書」欄に、ドラッカー博士は書きました。GMから依頼されて経営について調査し、著作「会社とは何か」をまとめ、社員の主体的な経営参加が必要との提言はトップマネジメントと組合から反対されてGMからは禁書扱いになった。「私の助けを借りてトヨタ自動車に持ち込まれ・・・」。

著者の今村氏はこれを読んで驚愕したようですが、実は私もこれを読んで驚きました。「トヨタ式カイゼン入門」など若松義人氏の著作の編集など手がけていた今村氏は、あらためてドラッカー読み直して今回の新刊となったそうです。

2005年のはじめと言えば、私は自宅で妻を介護しながら工業調査会で発行した「サプライチェーンマネジメント」関連の2冊の延長としてトヨタ式経営の応用である「セル生産がわかる70のポイント」を執筆がほぼ完了していました。そして、その直後、日本経済新聞社で2000年に発行した「サプライチェーン18

の法則」を日経ビジネス文庫「トヨタ式経営18の法則」に書き直ししておりました。

実は私も、「私の履歴書」を読んだ後、さっそくドラッカーを読みあさりました。

生態学で扱う個体の用語、トヨタ式経営や「セル生産」のキャノンや「アメーバ経営」の京セラなどを調査し、知りえた原理との共通点の多さに驚愕し、2005年頃から講演などで紹介しておりました。米国から学んだつものサプライチェーンマネジメント（供給連鎖管理）の源流は日本にあるじゃないか、そう思って、トヨタ式経営を中心とする日本式成功事例に求め、その原理を抽出していたら、そのさらに源流としてドラッカーに行き着いた。

ちなみにドラッカーの著作にはエコノミックチェーン（経済連鎖）という言葉がでます。マネジメントとは経営資源を顧客満足に変換する経済連鎖の生産性をあげることであり、という表現もありました。

そこに私の妻の病気で気づいたことが重なり、私的目的と公的目的が一緒になりました。ドラッカーの思想を自分が経験したり見たりする事例に照らしてドラッカーから学んだ知恵を応用する。身近なテーマで、多くの人にドラッカーを知ってもらおう。そう決意してメルマガジンを発行して、約40回、そろそろ2ヶ月になろうとしています。

読者から「生きる勇気を頂いている」「ドラッカーが人間愛あふれる人であることが改めて分りました」「難しいと思っていたドラッカーだが、今岡さんのメルマガ読んでドラッカーが読みやすくなりました」「仕事以外に一市民として老人や障害者に優しくできるようになりました」などたくさんコメント頂き、当初

の狙いが果たしているかなと一安心です。

どんなテーマで発信しているか。

例えば『3 人の石工』と題して、「飯を食うために働く石工」「技能に生きる石工」「教会を建てる石工」の話を紹介し、現場の専門家も全体の目標である顧客を意識して仕事をするのがマネジメントであると伝え、私が個人的に体験した、難病家族会のマネジメントに触れます。

マネジメントは肩書きではなく、どんな業務を担当していても自分の属する組織が、外部の人に、満足感を持ってもらうには何をどうするか「問う」ことと言えますと。

「分業体制が徹底している医療や介護の分野でもマネジメントは重要です。医師は診断し処方するだけ。看護師は医学的管理するだけ。介護士は食事や排泄など、身体介護するだけ。患者の身体的な問題に自分の専門知識を個別に応用するだけではなく、病気や障害のある患者の人生、患者家族との関係において支援することが目標として運営されれば、その施設のマネジメントは成果を上げていることになりま。そして経済的にもうまくいくでしょう」と書きました。

「P・F・ドラッカー 理想企業を求めて」(エリザベス・ハース・イーダスハイム、上田惇夫訳) から事例を引用しました。

「アメリカで難病のひとつ多発性硬化症(MS)の患者の一人だったスコット・ジョンソン。研究が患者の利益ではなく、論文数、補助金、ポストによって評価される。優先すべきは助成金であり論文数だった。研究者はお互い競争相手だから情報は共有しない。だから研究が進まない。ジョンソンはマネジメントの考え方を応用した。顧客はだれか、何をすべきかとい

う基本的な問いを發した。そして一流の研究者を結集させてお互い協力させた。家族会からは患者を頻繁に研究者に見させた。そして研究の加速度がついた。研究者も人を助ける行為に燃えた」

以上のドラッカーの理想とするマネジメント事例を私は自分が属している認知症家族会に提案したのです。

「困難にある家族を同じ経験をした家族だから理解しあえるのです。民主的に自主的に、家族が家族を救う場をつくるのもマネジメントです。お互いに助け合うことで、人を救い自分が幸せになれるような目的を認識してやるべきことをする。厚労省の役人の補助金を当てにして、幹部の名誉のために家族が負担を強いられている。顧客である介護家族のニーズに誰が答えるか、目的は何かを問うことから始めましょう」と。賛同してくれる人は多かったが、幹部からは、家族会組織を揺さぶる者として警戒されてしまった。

「認知症になった高齢者の残った機能で人生を楽しませる」ことを目標として、看護師や介護士や地域のケアマネージャーやヘルパーと連携を取って、患者とその家族の生活まで見ている医者のお話もしました。顧客は誰か、顧客満足は何かしつかりと使命を持ったドラッカー一流マネジメントをしているとメルマガで実名をあげてほめたたえました。

私の妻と家族のつながりを、企業と社会とのつながりに喩えた話の一部です。

若年性アルツハイマーの妻を病院から外泊許可をもらい、娘と一緒に温泉を楽しみました。

夕方、雨もあがり芝生の庭にでました。ベンチに腰かけていると、小川のせせらぎが聴こえ、緑濃い山と、雲の間から少し青い空も見えました。夫婦と娘一人の3人でしたが、妻は時々、誰といるか分からない瞬間がある。

短歌一首 「離れ行く きみの表情 引き留めん おどける笑顔 心は涙」

私が運転中、後部座席で、顔の見えない夫に不安を感じる。私を不思議そうにジッと見ている。私は必死で笑顔を作って「おとうさんだよ〜ん」と言って記憶を引き留める。そして分った時は、うれしそうに、「お父さん」と笑顔を返す。

その瞬間、ああまだ夫婦なんだ、家族なんだと安心します。思い出せなくても、結婚生活36年の経験の共有を実感できます。

夫婦や家族は最小単位の人間組織です。「社会生態学者」ドラッカーによると人間の組織は、すべて同一の「種」と言っています。そして一人ひとりと家族の関係。社員と会社の関係。会

社と社会の関係。これらは器官と身体との関係と同じだと洞察しています。生態学において、部分はなく、すべて全体である。「部分は全体との関係でのみ存在する」と言っています。

妻は私や娘を認識しているかぎり、家族として生きているのです。

企業（市民）は社会との関係でのみで存在する。食品偽装や環境破壊などを起す企業や、顧客である社会の構成員を認識できない企業は生きているとは言えません。

20歳代の青年ドラッカーは「いつまでも諦めずに目標とビジョンを持って自分の道を歩き続けよう。失敗し続けるに違いなくとも完全を求めよう」と決意しました。

ドラッカー博士が逝去されて3年後に、還暦を過ぎてドラッカーリアンになった私は残りの人生を、ドラッカー学会の皆様との連携の元で、大きなビジョン「人が幸せになるドラッカー一流のマネジメントを多くの人に伝える」ことを決意しました。

【筆者プロフィール】

今岡 善次郎 61歳(1947年5月)東京都中野区在住 東京農工大学大学院客員教授 経営コンサルタント。